

■能代キャンパス



■大潟キャンパス



■秋田キャンパス



■本荘キャンパス



航空機利用の場合

新千歳空港	約55分	秋田空港
羽田空港	約1時間10分	秋田空港
中部国際空港	約1時間20分	秋田空港
伊丹空港	約1時間30分	秋田空港

秋田新幹線「こまち」利用の場合

盛岡駅	約1時間30分	秋田駅
仙台駅	約2時間30分	秋田駅
東京駅	約4時間	秋田駅

高速道路利用の場合

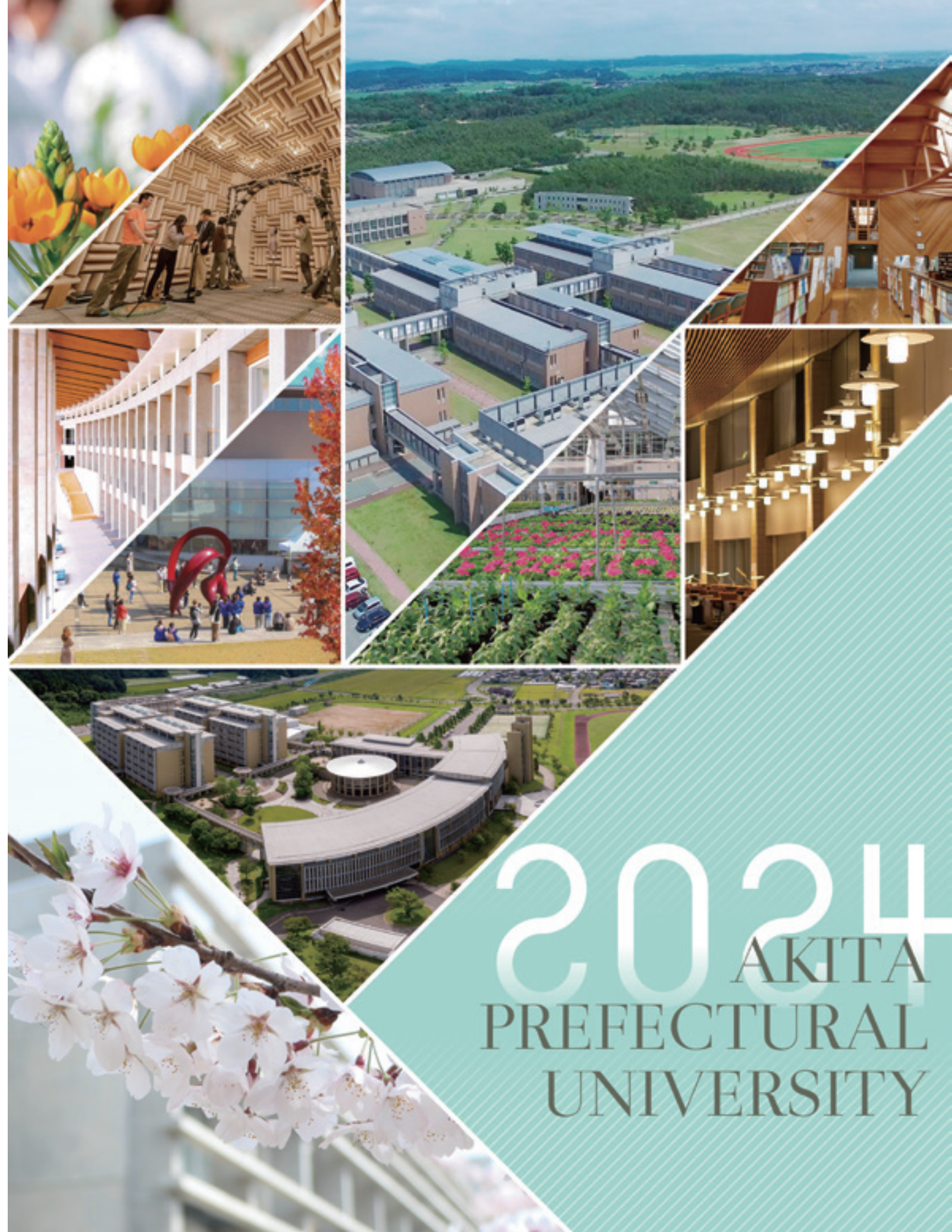
盛岡I.C.	約2時間10分	秋田北I.C.
盛岡I.C.	約2時間10分	大内J.C.T
盛岡I.C.	約2時間20分	五城目八郎潟I.C.
盛岡I.C.	約2時間40分	能代南I.C.
仙台宮城I.C.	約3時間10分	秋田北I.C.
仙台宮城I.C.	約3時間10分	大内J.C.T
仙台宮城I.C.	約3時間20分	五城目八郎潟I.C.
仙台宮城I.C.	約3時間40分	能代南I.C.



秋田キャンパス	◎本部 ◎生物資源科学部 ◎大学院・生物資源科学研究科	〒010-0195 秋田県秋田市下新城中野字街道端西241-438 TEL.0185-872-1500 FAX.0185-872-1670
本荘キャンパス	◎システム科学技術学部 ◎大学院・システム科学技術研究科	〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4 TEL.0184-27-2000 FAX.0184-27-2194
大潟キャンパス	◎生物資源科学部 【アグリビジネス学科3・4年次】 ◎大学院・生物資源科学研究科	〒010-0444 秋田県南秋田郡大潟村字南2-2 TEL.0185-45-2026 FAX.0185-45-2377
	◎アグリイノベーション教育研究センター	〒010-0451 秋田県南秋田郡大潟村字南6-5 TEL.0185-45-2858 FAX.0185-45-2415
能代キャンパス	◎木材高度加工研究所	〒016-0876 秋田県能代市字海跡坂11-1 TEL.0185-52-6900 FAX.0185-52-6924



秋田県立大学は
(独)大学改革支援・学位授与機構の
大学評価基準を満たしています。



理事長・学長挨拶

秋田県立大学の 新たなチャレンジ

【理事長・学長】

福田 裕穂 [ふくだ・ひろお]

1953年 静岡県浜松市生まれ。
1982年 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了（理学博士）。
東京大学理学系研究科教授、東京大学理事・副学長、
京都先端科学大学バイオ環境学部長を歴任し、2023年4月より現職。

今、世界は大きな転換期を迎えています。これまで、世界はグローバル化が進み、その結果、人々の生活は豊かになり、多くの病気も克服され、安全で幸せな未来が待っていると、楽天的に考えてきました。しかし、この数年の間に、ミャンマーでの軍事クーデター、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザ侵攻などの軍事行動が起き、台湾と中国との緊張は抜き差しならないところまで来ていて、世界は融和から分断へと逆戻りしています。また、新型コロナウイルスの世界的規模での蔓延、人間活動に伴う二酸化炭素濃度の上昇による地球温暖化など、グローバル化に伴う深刻な危機が次々と訪れ、グローバル化の負の側面もまた明らかになったのです。このグローバル化の明と暗が反転するかもしれない転換期において、真に必要なのはローカルとグローバルをしなやかに行き来する“知”であり、その知を身につけ実践する人です。

秋田県立大学は、1999年に創設された新しい大学で、システム科学技術学部・研究科、生物資源科学部・研究科をもち、多数の優れた施設を抱える理系大学です。これまでに「真理探究の精神をもち、広い視野と柔軟な発想のもと、豊かな創造力で、21世紀を切り開いていく人材を育成するとともに、先端的な研究や技術開発を行うことで、秋田県の持続的発展に貢献する」を目標に、グローバルとローカルを共に見据えながら、知の創造と人材育成の実績を積み重ねてきました。その依って立つ秋田県は、自然に恵まれ、広い農地や森林な

どの資源を有し、電子部品・デバイスなどの未来型産業の発展している地域で、まさにローカルからグローバルへと展開する知の実践の場として優れています。

秋田県立大学は、昨年度、10年後の未来を見据えて、新たなビジョンとアクションをセットとした、秋田県立大学ビジョン2033を公表いたしました(右ページ)。私たちは、このビジョンに沿って、企業、自治体、県民の皆様と共に、地域の課題解決に努めるとともに、地域から出発し、国際的価値を持つ研究、グローバル人材の育成、世界課題解決のための技術開発を推進していくつもりです。今年から、学生が企業等の課題解決に取り組む『キャップストーンプロジェクト』を試行的にスタートします。このプロジェクトは、企業等が抱えているビジネス課題と学生が向き合い、解決に近づくための方法を探るという非常に実践的なものです。学生は社会や企業等の実態と社会的課題を、リアリティーを持って知る良い機会となりますし、企業等は学生をよく知り、さらには学生を鍛える中で、より良い人材を確保できる機会となり、自治体にとっては学生の地域密着型の活動や定着のきっかけなどのメリットがあると考えられます。ですので、企業の皆様には、ぜひ参加していただきたいと考えています。

以上、秋田県立大学は未来を見つめながら走り続けますので、今後とも、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

秋田県立大学ビジョン2033 ―地域課題から世界へ―

ビジョン1：〔教育〕「知の器」を広げる ―タフで、優しく、挑戦的に

世界の転換期にあたり、将来が見通せない状況となっています。転換期においては、国際的視野と、これまでの常識にとらわれない発想と行動が必要となります。本学では、こうした世界の状況にあって、未来の世界の中核として活躍できる学生の育成をめざし、「タフで、優しく、挑戦的に」をモットーにして、学生の知の器を広げる教育を行います。

ビジョン2：〔研究〕未来の知を創成し、地域の課題解決／国際共創の中で知を鍛える

転換期においては、既存の知識を学ぶだけでは不十分で、知の創造が必要です。新しい知のシーズは、個人の思いや好奇心をとことん追求した中で生まれます。大学の目標である、真理探究の精神をもち、広い視野、柔軟な発想、豊かな創造力のもと、これに挑戦します。一方で、世界が複雑になる中で、未来をつくる知の創出には、さまざまな知恵や技術の連携・融合が必要です。そのため、大学内の農工融合を推進するとともに、大学を超えた研究連携を推進します。知のシーズは社会の中で磨かれて初めて真の知となります。地域の課題解決に向けた先端研究を知のシーズの鍛錬の場として強力に推進します。同時に、国際的な競争、共創の中で知を鍛錬します。

ビジョン3：〔社会連携〕地域の課題解決から世界へ展開するローカルからグローバルへ

秋田県は課題先進県で、農業の高齢化、人口減少、地球温暖化による環境劣化など、世界共通の課題を抱えています。これらの課題解決に向けて、スマート農業、食の6次産業化、未来型の森林利用、グリーンTRANSフォーメーションなどの産・農・学・公共創研究を展開します。この課題解決は地域の新産業・新農業創出に貢献するだけでなく、得られた知を世界と共有することにより、未来の世界の創成を先導することができます。

ビジョン4：〔運営・経営〕多様性に富む場を形成し、大学を活性化する

激動する世界の中で、未来を志向する研究・教育の体制は、それに相応しいものに変えていく必要があります。分野融合研究の推進体制の構築、国際化に対応した組織変革、多様性に目を向けた制度改革を行います。改革を、スピード感をもって進めるためには、学長のリーダーシップが必要です。リーダーシップが発揮できる体制とそれをチェックする体制を整備します。

今後のアクション

▶アクション1：〔教育〕

- ① 自主的に課題を解決する教育の推進
- ② 国際性を鍛える教育の充実
- ③ 農工連携教育の強化
- ④ 教養教育の強化
- ⑤ 起業家育成教育の推進
- ⑥ 大学院教育の強化

▶アクション2：〔研究〕

- ① 知のシーズとなる独創的研究の推進
- ② 産業や農業との共創による知の実践研究の推進
- ③ 農工融合研究の促進
- ④ 新たな知の創成プロジェクトの推進

▶アクション3：〔社会連携〕

- ① 自治体・地域企業・地域農業団体との連携による地域課題解決への貢献
- ② 学生参加型地域活性化プログラムの推進
- ③ リカレント、リスキリング教育を介した地域の活性化の推進
- ④ 地域への知の発信の強化

▶アクション4：〔運営・経営〕

- ① 大学運営体制の見直し
- ② 秋田国公立大学連携の強化
- ③ 大学入学者獲得に向けた取り組みの強化
- ④ 4キャンパスの連携の強化
- ⑤ 不断の大学内組織の見直し
- ⑥ 卒業生・支援者ネットワークの強化
- ⑦ 広報活動の強化

Contents

法人概要

- 1 理事長・学長挨拶
秋田県立大学ビジョン2033
- 2 沿革・予算規模・
教職員数・秋田県立大学組織図
- 3 法人組織図・事務局組織図

大学情報

- 4 基本理念・三つのポリシー
中期目標・中期計画
- 5 本学の特長
- 6 システム科学技術学部
- 7 生物資源科学部
- 8 アグリノベーション教育研究センター
- 9 バイオテクノロジーセンター
- 10 総合科学教育研究センター
- 11 木材高度加工研究所
- 12 大学院

地域貢献

- 13 地域連携・研究推進センター
- 14 地域貢献活動
- 15 国際学術交流

データベース

- 16 在籍者数
- 17 進路・進学状況
- 18 研究紹介
- 19 決算報告/外部資金
- 20 特許シーズ

キャンパス概要

- 21 本荘キャンパス
秋田キャンパス
大潟キャンパス
能代キャンパス

平成6年(1994)	12月	秋田県立大学構想検討委員会 「県立大学構想について」報告
平成7年(1995)	5月	県立大学設置準備事務局設置
	8月	秋田県立大学 基本構想策定委員会設置
平成8年(1996)	7月	(仮称)秋田県立大学基本構想策定
	10月	(仮称)秋田県立大学 創設準備委員会設置
平成10年(1998)	12月	秋田県立大学条例議決
	12月	秋田県立大学設置認可
平成11年(1999)	4月	開学
平成14年(2002)	4月	秋田県立大学大学院 システム科学技術研究科設置
	4月	秋田県立大学大学院 生物資源科学研究科設置
平成18年(2006)	4月	生物資源科学部 アグリビジネス学科設置
	4月	公立大学法人秋田県立大学設立
平成21年(2009)	6月	開学10周年記念式典開催
平成24年(2012)	4月	秋田県立大学大学院 共同ライフサイクルデザイン工学専攻設置
	4月	システム科学技術学部 機械工学科・知能メカトロニクス学科・情報工学科設置
平成30年(2018)	4月	システム科学技術学部 機械工学科・知能メカトロニクス学科・情報工学科設置
令和元年(2019)	6月	開学20周年記念式典開催
令和3年(2021)	4月	アグリノベーション教育研究センター設置
令和4年(2022)	4月	秋田県立大学大学院(博士前期課程) 総合システム工学専攻設置
		共同サステナブル工学専攻設置

令和5年度予算5,503百万円
(内運営費交付金3,498百万円、施設設備等補助金189百万円)

- 教職員総数270名(嘱託・非常勤除く)
内訳
 - 教員総数190名(教授69名、准教授77名、助教44名)
うち女性教員21名(教授2名、准教授8名、助教11名)
うち外国人数員11名(教授4名、准教授4名、助教3名)
 - 事務等職員80名

(令和6年4月1日現在)

Akita Prefectural University
秋田県立大学

- システム科学技術学部
 - 機械工学科
 - 知能メカトロニクス学科
 - 情報工学科
 - 建築環境システム学科
 - 経営システム工学科
- 生物資源科学部
 - 応用生物科学科
 - 生物生産科学科
 - 生物環境科学科
 - アグリビジネス学科
 - バイオテクノロジーセンター
- 総合科学教育研究センター
- アグリノベーション教育研究センター
- システム科学技術研究科
 - 総合システム工学専攻(博士前期課程)
 - 共同サステナブル工学専攻(博士前期課程)
 - 総合システム科学専攻(博士後期課程)
- 生物資源科学研究科
 - 生物資源科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)
- 木材高度加工研究所
- 地域連携・研究推進センター
- 附属図書館
- 事務局

役員会

- 理事長
- 副理事長
- 理事
- 理事
- 理事

学長選出

学長選考会議

経営協議会 ↔ 重要事項の審議 → 理事長

代表者の選出 → 学長選考会議

理事長 ↔ 重要事項の審議 ← 教育研究協議会

代表者の選出 ← 学長選考会議

役員会		経営協議会		教育研究協議会	
理事長(兼学長)	/ 福田 裕穂	株式会社北都銀行代表取締役頭取	/ 伊藤 新	理事長(兼学長)	/ 福田 裕穂
副理事長	/ 平野 浩之	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構機構長	/ 川合 真紀	副理事長	/ 平野 浩之
理事(兼副学長)	/ 蒔田 明史	株式会社リクルート リクルート進学総研所長	/ 小林 浩	理事(兼副学長)	/ 蒔田 明史
理事(兼副学長)	/ 水野 衛	秋田県商工会議所連合会会長	/ 辻 良之	理事(兼副学長)	/ 水野 衛
理事	/ 眞壁 善男	日本赤十字社常任理事	/ 板東久美子	システム科学技術学部長	/ 西田 哲也
監事	/ 河野 隆治	秋田県教育長	/ 安田 浩幸	生物資源科学部長	/ 中沢 伸重
監事	/ 佐藤 時幸	理事長(兼学長)	/ 福田 裕穂	総合科学教育研究センター長	/ 内山 応信
		副理事長	/ 平野 浩之	アグリノベーション教育研究センター長	/ 西村 洋
		理事(兼副学長)	/ 蒔田 明史	木材高度加工研究所長	/ 高田 克彦
		理事(兼副学長)	/ 水野 衛	システム科学技術学部教授	/ 菅野 秀人
		理事	/ 眞壁 善男	システム科学技術学部教授	/ 嶋崎 真人
				生物資源科学部教授	/ 佐藤 孝
				生物資源科学部教授	/ 重岡 徹
				本荘キャンパスリーダー	/ 高橋 晃

```

graph TD
    Dean[理事長(兼学長)] --> Education[理事 兼 教育部長]
    Dean --> Admission[アドミッション 本部長]
    Dean --> Research[理事 兼 研究・地域貢献本部]
    Dean --> Planning[副理事長 兼 企画・広報本部長]
    Dean --> Finance[副理事長 兼 財務本部長]
    Dean --> General[理事 兼 総務本部長]

    Education --> EducationDept[教育部]
    Education --> TeachingTeam[教務チーム]
    Education --> StudentTeam[学生チーム]
    Education --> CareerSupport[キャリア支援チーム]
    Education --> Library[附属図書館]
    Library --> Campuses[秋田キャンパス  
本荘キャンパス  
大湊キャンパス]
    Library --> EducationPlanning[教育企画室]

    Admission --> AdmissionDept[アドミッション 本部]
    Admission --> AdmissionTeam[アドミッション チーム]

    Research --> ResearchDept[研究・地域貢献本部]
    Research --> RegionalCoopTeam[地域連携・研究推進 チーム]
    RegionalCoopTeam --> RegionalCoopCenter[地域連携・研究推進センター]
    RegionalCoopCenter --> Campuses2[秋田キャンパス  
本荘キャンパス]

    Planning --> PlanningDept[企画・広報本部]
    Planning --> PlanningTeam[企画チーム]
    Planning --> PublicRelations[広報・情報チーム]

    Finance --> FinanceDept[財務本部]
    Finance --> FinanceTeam[財務チーム]

    General --> GeneralDept[総務本部]
    General --> GeneralTeam[総務・施設 チーム]

    Academic[学部・学科事務等] --> AcademicList[システム科学技術学部  
生物資源科学部  
総合科学教育研究センター  
アグリ/フォレスト教育研究センター  
木材高度加工研究所]
  
```


本荘キャンパス システム科学技術学部

機械工学科

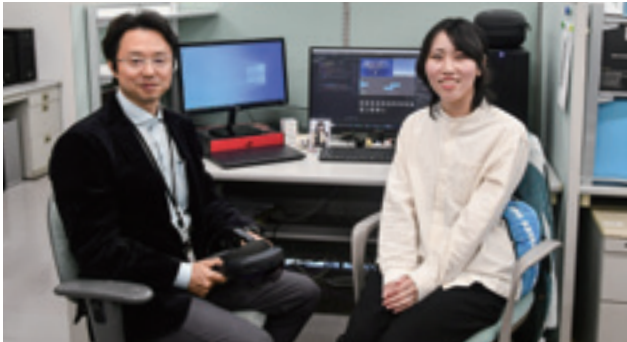
● 入学定員／60名 ● 学科長：鶴田 俊



生産技術関連分野において、シミュレーション技術や IT、AI との融合技術をはじめ、サイバー空間を活用する生産技術のデジタルトランスフォーメーションが進化しています。機械工学の基礎をなす材料力学、熱力学、流体力学、機械力学を重視し、ものづくりに必要な知識と技術を修得する授業を行います。プロジェクト型授業を導入し、デジタルレボリューションによる物理的な生産の在り方、価値創造などの上流から下流までの生産プロセスの在り方などに関するセンス・実践力をエネルギーシステム、輸送機械、生産システムを対象に養います。システム思考により専門分野を有機的に結合し、地域社会基盤を支える実践的技術者育成を行います。

情報工学科

● 入学定員／40名 ● 学科長：西口 正之



情報工学科では、コンピュータのソフトウェアの開発手法や、インターネット活用の為の技術はもとより、それらを利用することでどのような価値を世の中に提供できるのか、という事をテーマに日々研究を行っています。皆様の身の回りにある様々なデータ、例えば音声や画像のデータを、テキストデータなどとともに、どのように高付加価値化することが出来るのか、安全で面白いアプリケーションやサービスはどうすれば出来るのか、ということを中心に考えています。一見無価値に見えるデータも、それらを蓄積して適切に処理してあげると、意味のある情報になります。見えないものを見たり、聞こえない音を聞いたりすることも可能になります。私達は、いままで経験したことがない、新たなユーザー体験を創出することを目指して日々研究を進めています。

経営システム工学科

● 入学定員／40名 ● 学科長：木村 寛



社会の持続的発展につながるイノベーションには、個人や企業と、それを取り巻く自然環境および社会経済環境との間の相互作用についての理解、すなわち鳥瞰的視野からの外部環境の理解が必要不可欠です。本学科は、このような理解の上に立ち、数理的な手法を用いた経営工学を基礎とするイノベーションを目指し、それを実行できる人材の養成を目的とした教育を行います。このような人材は、モノやサービスすなわち有形無形の価値を創造するさまざまな集団における意思決定とその実行において、中心的な役割を担うことが期待されます。

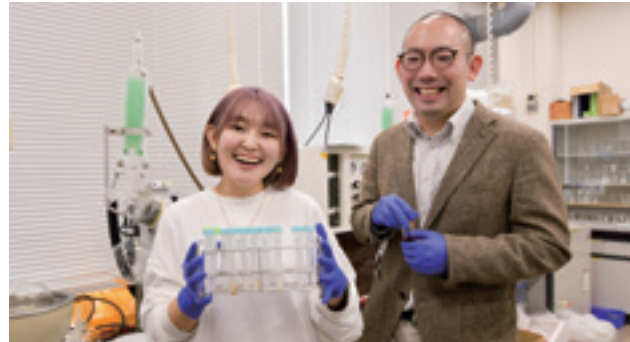
秋田キャンパス／大潟キャンパス 生物資源科学部

最新テクノロジーで追求する、人と生物資源との「共生」の新たな可能性。

● 〈4学科〉入学定員150名
● 学部長：中沢 伸重
● 副学部長：長濱 健一郎

応用生物科学科

● 入学定員／40名 ● 学科長：小林 正之



本学科では動物・微生物・植物と幅広い生物の生命現象の解明と、秋田県に特有な素材の有効利用に関する研究によって得られた成果を、産業や医療に役立てることを目指しています。本学科における教育の目標は、ライフサイエンス・食品・醸造産業における研究者や技術者を育成することです。動物・微生物・植物の遺伝子や遺伝子操作技術、清酒造りや食品開発に興味がある、研究者や技術者になりたいとあこがれる皆さん、応用生物科学科で私たちと一緒に学びませんか。

生物環境科学科

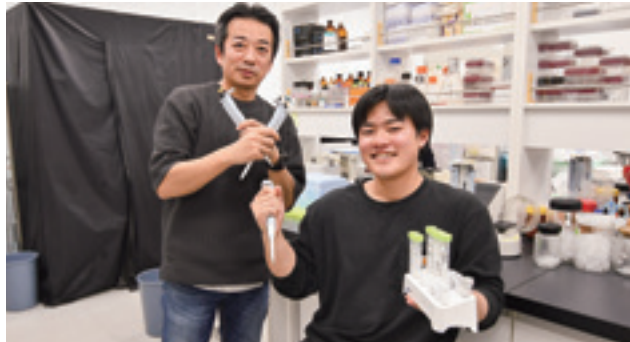
● 入学定員／30名 ● 学科長：宮田 直幸



本学科では、私たちの生活に身近な地域から地球規模まで広がる自然環境や生物資源に関わる問題をフィールドに密着しながら発見し、人間生活への生物資源の活用と保全、自然環境の修復と再生などに関する教育・研究を行っています。生物学・化学・環境科学などの基礎を学んだ学生は、4つの研究グループのいずれかに進み、秋田県内外の様々な自然環境や農山村地域を題材としながら、異なる専門分野の研究者や地域の人々と手を携えて、人間と生物資源をとりまく環境問題の解決や環境と調和した生物資源の効果的利用に貢献します。

生物生産科学科

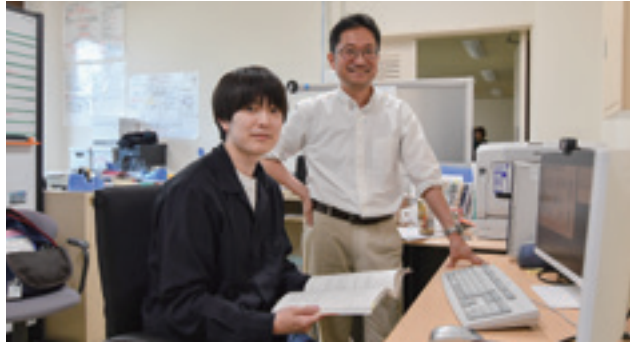
● 入学定員／40名 ● 学科長：藤 晋一



これからの農業には地球温暖化や国際情勢の変化に迅速に対応し、消費者からみて魅力のある食料を安定生産することが求められてきます。これらの課題を解決するためには、これまでにない新品種の育成や健康に配慮した高付加価値な作物の生産、環境に配慮した安全・安心な食料生産技術などが必要となります。一方、植物は生薬や化粧品原料としても古くから利用されており、無限の力を秘めています。本学科では、植物のもつ能力を科学的に探求し、理解を深化させることで、新しい知見を世界に発信すると同時に、バイオテクノロジーをはじめとした最先端の技術を活用して、植物の能力を引き出し、新たな技術の開発や新品種の開発を進めることで、これからの農業をおもしろくできる人材を育成します。

アグリビジネス学科

● 入学定員／40名 ● 学科長：重岡 徹



「アグリビジネス」とは、農業生産を基幹とし、生産物の流通と消費までを含む、農業・農村・食に関わる新しい社会的・経済的活動を意味します。本学科では、そのような「アグリビジネス」において、時代のニーズに答える知の創造と技術の開発を行っています。本学科で学び養われる力は、①分野横断的知見(農業の生産技術や経済を学び地域現場を総合的に捉える知見)、②ビジネス思考(収益性や持続性の向上を目指して思考する能力)、および③現場応答力(地域現場の課題を見出し、その課題解決策を提案する力)です。皆さん、一緒に学び・研究し、持続可能な新しい農業・農村・食を創成していきましょう！

アグリイノベーション教育研究センター

●センター長：西村 洋

スマート農業の研究拠点 全国一の広さを誇る大規模農場

第3期中期計画に掲げた「次世代農工連携拠点センター（仮称）構想」の検討に基づき、令和3年4月1日、大潟キャンパスに『アグリイノベーション教育研究センター』を設置しました。同センターは、生物資源科学部の附属施設である「フィールド教育研究センター」を改編し、全学的な組織として新たにスタートしました。

秋田県農業が労働力不足・後継者不足などの深刻な課題を抱える中、「スマート農業」の普及を切り口に、農業振興、さらには製造業・情報通信業など関連産業の振興を図りながら、秋田県立大学が持つ農学系・理工学系の知見を総動員して教育・研究を行う拠点として、秋田県の持続的発展に貢献していきます。

総面積190ha、東京ドームの建築面積の約40個分。そのうち圃場面積が164haあり、大学附属農場の中で全国一の広さです。水稻に加え、大豆や小麦などの畑作物、果樹や野菜、花きなどの園芸作物、牧草やトウモロコシなどの飼料作物が栽培されるとともに、肉用牛も飼養されています。センターには、ローカル5G、キャリア5G及び主要施設への無線LANアクセスポイント等の高速通信網も備えており、農業生産の大規模フィールドで、演習や実習、卒業研究、地域に最適化されたスマート農業モデルの開発・実証などが行われます。

教 育

学部生・大学院生を対象とした講義・実験・実習等・社会人教育「スマート農業指導士育成プログラム」

研 究

学内研究・共同研究・受託研究等の実施及び支援
新たに設置するコンソーシアムを通じた共同研究等の推進・技術等の普及促進

【研究事例】

- 秋田版スマート農業モデルの創出に向けた研究
（デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプSociety5.0型）、秋田版スマート農業モデル創出事業費補助金）
- 秋田県における田畑輪換推進のための技術研究
- 湛水および乾田直播栽培の実証研究
- キイチゴ属植物の園芸利用と産地化に向けた研究
- 放牧短角牛の管理技術と肉質改善に関する研究 など

技術展示・地域貢献

県内高校生を対象とした体験学習会・出前講座等、一般県民・児童など学校関係者等の見学受け入れ、センター開放デーの開催

施設・機器概要

- センター研究・管理棟 ●センター管理棟 ●大区画農場 ●研究用小区画水田
- コンピュータ制御園芸温室 ●環境制御型パイプハウス ●人工気象室 ●牛舎
- 作業舎 ●機械格納庫 ●整備舎 ●穀物乾燥調整設備 ●保冷库
- 圃場164ha（水田25ha、畑45ha、果樹園6ha、牧草地ほか88ha）
- スマート農機（ロボットトラクター・田植機、自動運転コンバイン、農業用ドローン）
- トラクタ、ローダー等の大型機械（20台） ●その他農業機械（約70台）



生物資源科学部附属 バイオテクノロジーセンター

●センター長：水野 幸一

生命科学や農林水産業の発展に 貢献する研究・教育活動拠点

バイオテクノロジーセンターでは、現在の生命科学研究に不可欠である分析技術のうち、DNA塩基配列の解析、DNA多型解析、遺伝子組換え植物の作製などの受託解析サービスを広く学内外のユーザーに開放しています。バイオテクノロジーセンターでは既に10年以上の受託実績を有し、現在では本学の生物資源科学部の教育研究活動にとって不可欠なセンターとして位置付けられるほどに成長していますが、今後、本学の重要な活動の特色の一つとしてなお一層の発展を図っていきます。専門分野の異なる教員が運営に関与し、熟練した専任スタッフが独自に開発した分析マニュアルを使用してユーザーの多様なニーズや相談にも応えています。こうした活動を通じて、学内の研究の高度化を図り、実践教育にも貢献するとともに、社会貢献にも努めてまいります。

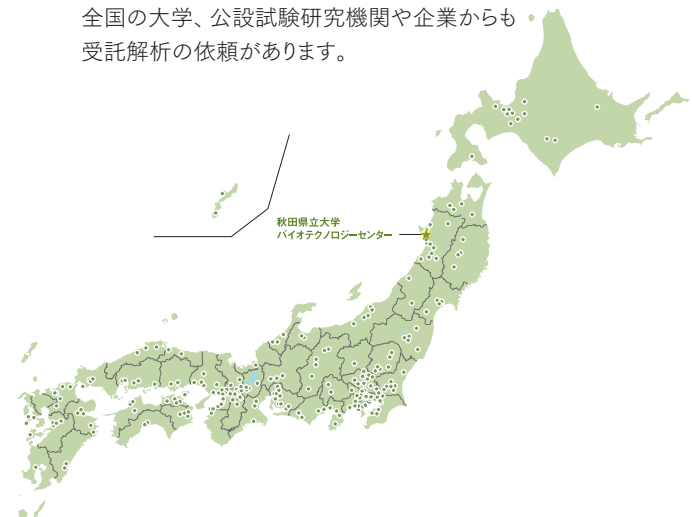
バイオテクノロジーセンターの 研究支援サービス

- 1 DNAシーケンス解析
- 2 DNA多型解析
- 3 植物病害の分子診断
- 4 食品に関わる微生物の同定
- 5 遺伝子組換え植物の作製と育成

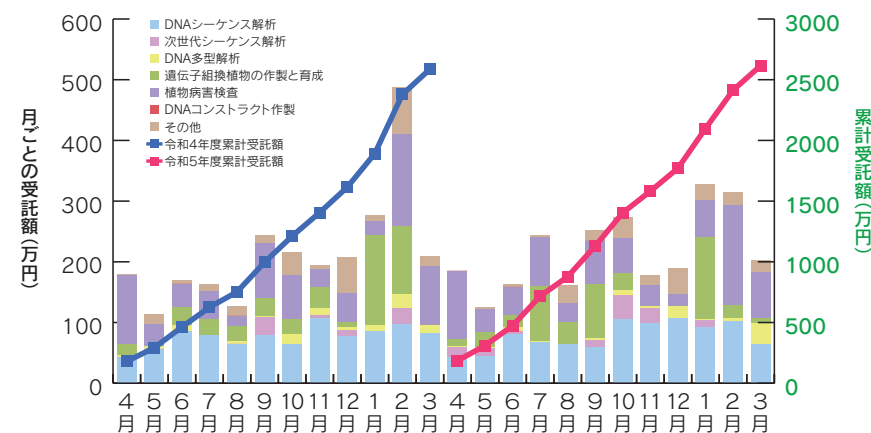
※本サービスは、本学との受託契約を締結した上で実施いたします。

バイオテクノロジーセンター利用者の分布

秋田県内だけでなく、全国の大学、公設試験研究機関や企業からも受託解析の依頼があります。



受託額の推移



教養教育 総合科学教育研究センター

●センター長：内山 応信

グローバルで、広角的な 基礎学力を身に付ける

教育 目標

目標1
豊かな感性と鋭敏な分析能力を育成

目標2
実用に耐える英語能力と情報処理技術

人文・社会等

創造的な「ものづくり」のための先端技術の開発も、最終的には人々の幸福な生活を目標にします。分野は様々に異なろうと、テクノロジーの進歩に貢献する未来の科学者・専門技術者である学生は、将来のキャリア形成に向けての専門研究とあわせて、今から人と社会への関心を幅広く涵養し維持する必要があります。秋田県立大学では、専任教員の授業だけでなく、放送大学の授業も利用しながら、グローバルな視点の育成、人や社会生活についての複眼的・広角的な思考力の養成を図ります。

英語

本学では実用的な英語を重視し、社会人として、また研究者・技術者として、実社会で使える英語の習得を支援する教育を行っています。入学直後からCALLでリスニングに慣れ、その後、学生それぞれのニーズに応じて、話す・読む・書くための科目やTOEIC・英検等の受験に対応する科目も開講します。また、新入生を対象に客観的英語力測定のためにTOEIC Bridge試験を年2回実施し、2年生以上を対象にTOEIC IP試験を実施します。

保健体育・情報科学・数学、教職課程

保健体育科目では生涯にわたる健康教育、スポーツ実践の基礎的理論及び技能の養成を図り、コンピュータリテラシーでは日々進展し続ける情報化に対応していける力を養成します。また専門科目を学ぶ上で欠かせない専門基礎(共通基礎)科目のうち、数学教育を学部教員と協力して行います。さらに教職免許状取得を希望する学生のために、教育職員免許法及び同法施行規則の定める所定の単位を修得できる教育課程を編成しています。



附置研究所 木材高度加工研究所

●所長：高田 克彦

木材資源の理想的な循環系の確立で、 人類の未来に貢献

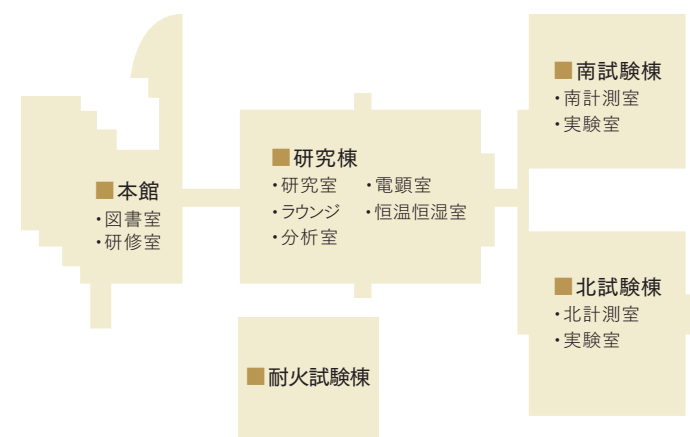
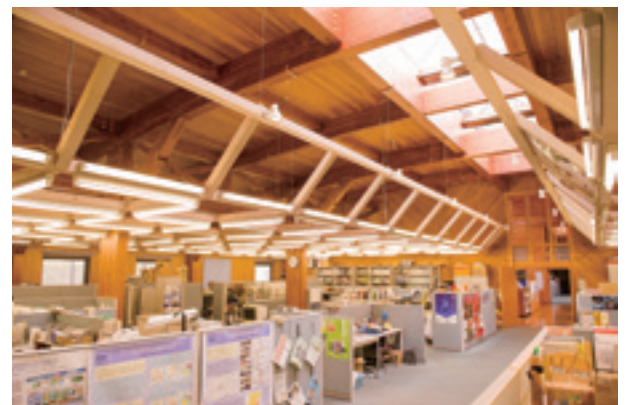
木材資源の理想的な循環系の確立を目指して

木材高度加工研究所は、秋田県の本県産木材産業を資源依存型から技術立地型に転換することを目的として、平成7年に誕生しました。平成11年に秋田県立大学の附置研究所となり、木質資源の理想的な循環系の確立を目指して、木材の基礎物性・加工・利用に関する研究と技術開発を行うとともに、高い技術力を備えた人材の育成(大学院博士前期課程・博士後期課程)にも取り組んでいます。

本研究所では、専任教員が複数層にグループを構成して創造的なプロジェクト研究を展開しており、効率的に研究が推進できる体制をとっています。このことは、学生の教育・支援においても活かされ、研究能力ばかりではなく幅広い見識を育てることに役立っています。また、本研究所の研究成果を民間に技術移転する、あるいは各種の情報を研究所が円滑に得るために、公益財団法人秋田県木材加工推進機構が研究所内に併存しています。

主な研究テーマ

- 森林の多面的機能の発揮に向けた森林資源の管理システムの開発
- 地域活性に向けた林産物の多目的流通・利用システムの開発
- 需要拡大に係る高度技術の開発
- 新規需要創出に向けた新たな木質材料・構造・工法の開発



大学院

より深く濃密な研究を重ね、高度な専門技術を学ぶ

高度専門職業人の養成を重視

高等教育機関として教育面・人材養成面で地域社会からの期待が大きい高度専門職業人の養成を重視するとともに、後期課程については、より高度で専門的な業務に従事できる高度技術研究者の養成に重点を置いた教育研究指導を進めます。

社会人再教育の重視

全国的な学部卒業者や社会人の大学院入学希望者の増加、さらには産学官連携による科学技術基盤の形成が課題となっている秋田県における潜在的なニーズに積極的に対応しています。

少人数教育

論文指導、実験指導における少人数教育体制が確立しており、教員と「Face to Face」で研究を進めることができます。



システム科学技術研究科

●研究科長：西田 哲也 ●副研究科長：堂坂 浩二

博士前期課程	総合システム工学専攻	入学定員 42名
	共同サステナブル工学専攻	入学定員 8名
博士後期課程	総合システム科学専攻	入学定員 8名

システム科学技術研究科は、高度な教育研究を行うため、学部で構成する5学科に対応する総合システム工学専攻および秋田大学と共同で設置する共同サステナブル工学専攻からなる博士前期課程と、それらを包括的に発展させた総合システム科学専攻の博士後期課程を設けています。システム思考を身につけ、創造力と総合力に秀でた次世代を担う高度エンジニアの育成を目標に掲げ、充実した研究設備を整えとともに、国内外の学会などでの発表も積極的に支援します。

また、開かれた大学として地域の研究機関・企業などと連携を密にしていることも特色で、本荘由利産学振興財団による学生の研究活動や海外派遣への支援もあります。



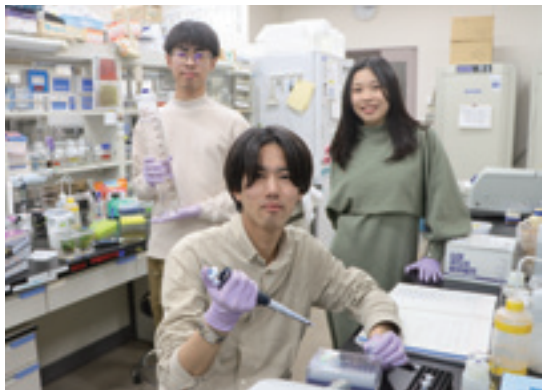
生物資源科学研究科

●研究科長：中沢 伸重 ●副研究科長：高田 克彦、長濱 健一郎

博士前期課程	生物資源科学専攻	入学定員 28名
博士後期課程	生物資源科学専攻	入学定員 5名

物質文明の成果の下、私たちは豊かな生活を享受しているかに見えますが、食料、エネルギー、環境の面で重大な問題を抱え込んでいます。これらの問題解決なしには人類の未来はありません。解決の鍵は再生可能な生物資源と人類の共存関係の樹立にあると考えます。その原理を解明し、ふさわしい技術を確立することが私たちの課題です。

本研究科では、今までの農業システムを再吟味し、新しい生物機能の発見と応用を通じて、これらの課題に取り組む専門的技術者を育成します。



地域貢献 地域連携・研究推進センター

地域の人々とのパイプ役を目指して

科学技術の振興と地域社会の発展に貢献

地域連携・研究推進センターは、大学と地域の方々との連携推進や研究活動の支援のために設置された組織です。大学には様々な知的資源があり、これを社会へ還元するのが地域連携・研究推進センターの役割です。

そのため、専任の教員やコーディネーターを配置し、大学の研究者と企業等をつなぐ業務を行っています。また、産学官連携イベントやホームページなどを通じて、大学の研究シーズを積極的に企業等に提供することで、産業振興に貢献することを目指します。

主な業務

産学官連携の推進

- 企業等からの技術相談への対応や受託研究、共同研究の窓口業務を行っています。
- 大学の研究者の情報を広く提供し、企業等との連携推進を図っています。
- 産学官連携イベントなどでの出張窓口を設置しています。

研究活動の支援

- 教員の研究活動を支援するため、地域課題等をテーマとする研究への研究費配分や外部資金制度に関する情報提供及び受け入れを行っています。
- 研究を通じて開発される知的財産権の保護・活用を推進しています。

地域交流の促進

- 研究成果発表会や産学官交流イベントを開催しています。
- 研究者の研究シーズの発信や地域等からの要請に応じた講師の派遣を行っています。

最先端の研究を秋田から

秋田県立大学が取り組む注目の研究課題

小型軽量電動化システムの研究開発による産業創生

事業の概要

航空機システム電動化を中心とした先端的研究・開発による参画企業のレベルアップ、国内外の教育機関等と連携した専門人材の育成により、大学の魅力向上(大学改革)と県内産業の創生による若者の県内定着を実現することを目的としています。

秋田版スマート農業モデル創出事業

事業の概要

秋田県農業が労働力不足・後継者不足などの深刻な課題を抱える中、「スマート農業」の普及を切り口に、農業振興、さらには製造業・情報通信業など関連産業の振興を図りながら、秋田県立大学が持つ農学系・理工学系の知見を総動員して教育・研究を行う拠点として、秋田県の持続的発展に貢献していきます。

こんな時にお役に立ちたい

- 新商品開発や、生産技術の改善、省力化を実施したい。
- 大学に研究を依頼したい。
- 大学と共同で研究を実施したい。
- 近年の技術動向や環境対策等について話を聞きたい。
- 企業の技術研修を行いたい…など

※専門外のことも必要に応じて、連携する他の機関にご紹介し、その解決をサポートします。

提供できるサービス内容

- 相談案件に対するアドバイスをお引き受けします。
- 機器材を用いた技術指導、企業への技術指導、会社や工場へ出向いての指導・助言も行います。
- 商品開発や技術改善等のための受託・共同研究の実施をお引き受けします。
- ご要望に応じ講師を派遣します。
※一般的なアドバイスに要する相談費用は無料です。
ただし、指導などに伴う消耗品や旅費などを負担していただく場合もあります。

お問い合わせ

秋田キャンパス

TEL.018-872-1557 FAX.018-872-1673

本荘キャンパス

TEL.0184-27-2947 FAX.0184-27-2194

森の価値変換を通じた、自律した豊かさの実現拠点

事業の概要

人口減などで地域社会が縮小する中で、秋田県の「森林資源」を多角的に活用することで、資源や技術を受け継ぎ、人材と文化の交流を促して経済・産業を活性化させ、新しい循環システムの構築を目指すプロジェクトです。秋田の豊かな森林資源の活用を事業の柱に据え、さらに人材育成や産業創出の推進に努めます。



地域貢献 地域貢献活動

地域貢献活動について紹介します。

1. 産学官連携

地域企業に対する技術指導、技術移転及び共同研究等の実施

(1)技術相談等

令和5年度実績 295件

- 秋田県産の加工リンゴを使った新規商品開発について
- 高糖度トマトの栽培技術について
- 豆板醤に発生した酵母菌について
- 三関セリの収穫作業の軽労化について
- スマート農機の開発について
- アスパラガスの自動収穫について
- ブナの曲げ特性の個性差について
- データ分析の手法とセキュリティについての技術相談
- 給食のDX化について
- しいたけの腐菌床の有効活用について
- 竿燈祭りの提灯の曲げ木加工について
- 高RS米の商品開発について

(2)研究成果発表会

令和5年度実績 14件

- JST新技術説明会 1件発表
- アグリビジネス創出フェア2023 4件出展
- 大学見本市～イノベーションジャパン出展～ 2件出展
- 未来へのステップ:あきたイノベーションフォーラム 7件出展

(3)共同研究・受託研究

令和5年度実績 184件

- サキホコレ！ローカル5Gとリアルメタバースを活用した秋田県産地モデル実証委託事業
- 寒冷地におけるZEH住宅の温熱環境に関する研究
- 学術研究活動を支援する教育システムの開発に関する共同研究
- 秋田県産タマネギの生産性改善による自給率向上モデル実証
- FRP熱可塑性複合材料のリサイクル性およびその成形加工の影響
- 生活保護業務を支援するための質問応答システムの開発
- 令和5年度輸送機産業軽量部品製造法研究開発業務
- むつき法によるNb3Sn超伝導薄膜製造のためのシードCu層の密着強度評価
- 次世代航空機用電動燃料ポンプ性能評価試験技術の獲得
- 難削材加工用硬質コーティングの開発
- ハウス栽培作物向け自律式CO2移動センサシステムの研究・開発
- 光ファイバーセンサーによる高感度・実時間赤外分光計測装置の開発
- 秋田県産スギ材を活用したトラス梁を用いる新たな木造建築構法の開発
- 津波及び洪水等による外力性状に関する研究
- 無線通信用受動デバイスの評価方法の確立
- 生命情報の低次元化を起点とする多階層モデル駆動型研究戦略の創出
- 卓上型上肢ロボット支援リハビリテーション機器のための訓練プログラム開発
- 国産タマネギの安定供給に向けた持続可能なタマネギ腐敗性病害防除技術の構築
- 昆虫と微生物の共生メカニズムに関する共同研究
- 初からの繊維状シリカの抽出およびその応用
- 秋田県オリジナルリンゴ「秋田5号」の果実特性と発酵特性
- 秋田県在来柿「雲然柿」の特性評価および「柿漬け」との関連性
- 緑肥の肥料効果の面的把握とすき込み方法の改善に基づく減化学肥料栽培技術
- 八郎湖沿岸部におけるタテボシガイ等淡水二枚貝の定着化手法の構築
- 光を利用した植物の病害虫防除方法の確立
- イネの育種素材の探索:かつて秋田で栽培されていた在来品種の評価と活用
- 簡便なリボタンパク質測定方法の開発
- 水質保全計画策定等業務(外来魚の有効活用と安価な処理方法の検討)
- 水質保全計画策定等業務(凝集剤を活用した代か泥水の沈澱試験)
- 廃棄物削減に向けた統合的廃棄物管理に関する研究
- 秋田県における農事功績表彰者の多角的評価と行動様式・態度の特質に関する研究
- 暗果排水効果検証業務(「地下かんがい」と「水稲増収」の関係調査)
- 特定復興再生拠点区域等の円滑な営農再開に向けた技術実証
- 廃棄たまねぎの低コスト処理技術の確立
- 初級燐炭培土のモニター試験
- モデル鉱山におけるMn酸化菌を活用した接触酸化方式の性能評価及び現場適用に向けた検討
- タマネギの安定・多収生産のための実証研究
- 初級の有効活用に向けた実証研究
- 休廃止鉱山廃水処理に資する微生物資源の適用可能性の検討
- 中干し延長による水田由来のメタンガス排出量削減モニタリング技術の確立
- 水稲細菌病制御技術及びたまねぎの病虫害防除体系の確立
- マンガン酸化菌を利用した水処理に関する国際動向把握のためのレビュー調査
- 遺伝子最適化技術による新穀物／新バイオマス草本植物の開発
- 水稲の有機栽培における雑草制御技術の開発
- 五城目町におけるブランド構築によるキイチゴの産地展開に関する経営実証研究
- 能代市におけるラズベリーの安定的な生産・出荷および市場拡大に関する経営実証研究
- イチゴ生産における自動選別バック詰めロボットを活用したスマート出荷体系の構築
- 農業経営者人材育成プログラム「次世代農業経営者ビジネス塾」の実証・評価
- 水質保全計画策定等業務(排水路整備による「小動物の生息調査」と「排水量調査」)
- 水質保全計画策定等業務(水質モニタリング)
- RTK-GNSSやドローンのマルチユースによる生産コスト削減
- 畑作の作目・作付け体系多様化のための作物学・土壌学研究
- ウシの妊娠性向上システムの実用化事業
- アンモニアマイクログスタービンのコージェネレーションを活用したゼロエミッション農業の技術実証
- 漆器の高耐久化技術の開発
- 木製構造物と他素材構造物における利用効果について
- 高層建築物等の木造化に資する等方性大断面部材の開発
- 浄化槽システムの脱炭素化に向けた維持管理・転換方策の提案とシナリオ設計
- 農地土壌の炭素貯留能力を向上させるバイオ炭資材等の開発
- 国産ナラ材を用いたウィスキー樽の品質改善に関する研究
- 曲げわっぱの生産性向上技術に関する研究

令和5年度実績

2. 公開講座等

公開講演会

- 「いつでも青春キャンパス」シニア大学生中間報告＆羽佐間道夫さん講演会 参加者数520名

公開講座

- 秋田県立大学公開講座「三種町の地域づくりと県立大学～新しい切り口で地域の課題に迫る～」..... 延べ参加人数 70名

●木材高度加工研究所

木材基礎講座..... 延べ参加人数 83名

木材応用講座..... 延べ参加人数 7名

木材高度加工研究所公開講演会..... 延べ参加人数 70名

3. 連携協力協定機関

協定締結先	締結日
株式会社秋田銀行との連携協力協定	平成18年 12月27日
株式会社北都銀行との連携協力協定	平成19年 3月29日
中小企業金融公庫秋田支店との産学連携協力協定	平成19年 7月 6日
国民生活金融公庫秋田支店との産学連携協力協定	平成19年 9月 7日
TDK株式会社との連携協力協定	平成19年 10月15日
株式会社わらび座との連携協力協定	平成19年 11月 6日
国立大学法人東京農工大との連携協力協定	平成20年 7月18日
国立大学法人秋田大学との連携協力協定	平成20年 7月22日
戦略的大学支援事業「プロジェクト「4A」」協定	平成20年 9月17日
戦略的大学支援事業「スーパー連携大学院構想」協定	平成20年 9月26日
湯上市との連携協力協定	平成20年 10月23日
秋田県立図書館との相互協力に関する協定	平成20年 12月16日
由利本荘市との連携協力協定	平成21年 2月24日
にかほ市との連携協力協定	平成21年 2月24日
大湯村との連携協力協定	平成21年 3月 4日
秋田大学・国際教養大学との連携協力協定	平成21年 3月24日
大湯土地改良区との連携協力協定	平成21年 9月10日
秋田県能代地区土地改良区との連携協力協定	平成21年 10月28日
秋田市との連携協力協定	平成22年 1月 7日
小坂町との連携協力協定	平成22年 2月26日
秋田県立博物館との連携協力協定	平成22年 3月25日
秋田大学との共同大学院設置に関する協定	平成22年 12月 3日
横手市との連携協力協定	平成23年 3月15日
三種町との連携協力協定	平成23年 3月24日
首都大学東京システムデザイン学部との部局間協定	平成23年 3月28日
秋田湯沢翔北高等学校との連携協力協定	平成23年 11月21日
美郷町との連携協力協定	平成24年 2月16日
岩手県大槌町との震災復旧及び復興に向けた連携協力協定(木材高度加工研究所)	平成24年 5月10日
東北森林管理局との連携協力協定	平成24年 9月28日
男鹿市との連携協力協定	平成24年 10月26日
秋田県教育委員会との連携協力協定	平成25年 7月17日
秋田県立秋田中央高等学校との連携協力協定	平成25年 9月10日
新潟大学農学部・山形大学農学部との部局間協定	平成25年 9月27日
能代市・米代西部森林管理署・風の松原の再生と共に歩む会との連携協力協定(木材高度加工研究所)	平成26年 9月 4日
株式会社ユーラスエナジー秋田港との連携協力協定	平成27年 5月19日
大館市・米代東部森林管理署・大館曲げわっぱ協同組合との連携協力協定	平成27年 9月 9日
秋田県農業法人協会との連携協力協定	平成29年 9月 1日
秋田県立横手高等学校との連携協力協定	平成30年 9月10日
株式会社アルビオンとの連携協力協定	平成31年 3月14日
上越教育大学との連携協力協定	平成31年 4月 1日
株式会社秋田ケーブルテレビとの連携協力協定	令和 2年 5月 1日
秋田県水産振興センター・日本風力開発株式会社との連携協力協定	令和 2年 7月16日
秋田県立金足農業高等学校との連携協力協定	令和 3年 2月17日
リコージャパン株式会社との連携協定	令和 3年 3月15日
KDDI株式会社との地域活性化に関する協定書	令和 3年 3月22日
秋田大学との共同大学院の設置に関する協定	令和 3年 6月22日
東日本電信電話株式会社秋田支店との地域活性化に関する協定	令和 3年 11月29日
大仙市との連携協力協定	令和 4年 3月17日
株式会社ゆう幸及び秋田県内のラズベリー生産者との連携事業及び登録園場制度にかかる協定	令和 4年 10月18日
仙北市の連携協力協定	令和 5年 3月27日

地域貢献 国際学術交流

国際学術交流は、本学の教育・研究の成果を積極的に情報発信し、国際的認知を高める観点から重要です。また、学生に対する国際的活動・交流の場の提供、研究内容の充実という観点から、異なる文化、異なる習慣と交流することは有意義なことです。さらに、世界の研究機関との先進的な科学技術や人的交流を促進することにより、本学の教育・研究の水準を高め、次代の人材育成ひいては、地域の産業振興や持続的発展にも大きく寄与していく活動であると期待されます。人類と地域の持続的発展に関する幅広い知的財産やそのシーズを有する本学は、その教育や研究の体制を一層充実させるために、国際共同研究、研究者の相互派遣、留学生の受け入れや派遣などにより、国際学術交流を積極的に推進していきます。

短期海外渡航研修

本学では、教員が立案し海外での学生交流を主目的とする国際交流プログラムと、夏期・春期休業期間を利用して学生を海外へ派遣する語学能力の向上と異文化体験を目的とした研修プログラムを実施しています。令和5年度は、国際交流プログラムとして、カリフォルニア大学サンディエゴ校(USA)、国立宜蘭大学(台湾)、モンペリエ農業科学高等大学院大学(フランス)、アルバータ大学(カナダ)、語学等研修プログラムとして、ビクトリア大学(カナダ)、グアム大学(USA)、シンガポール国内の大学及び現地日系企業に、延べ42名の学生が参加しました。

国際学術交流協定

本学では特定の大学などとの間で平等互惠の精神に基づいて、国際学術交流を推進し、本学の教育・研究の水準を高め、さらには地域貢献を強化するため、大学間・部局間で国際学術交流協定を締結しています。令和6年4月現在、7つの国・地域で、13の大学・学部などと大学間・部局間協定を締結しています。

大学間協定

国・地域名	大学名	協定・覚書の締結・更新日
台 湾	国立宜蘭大学	平成20年 2月29日
中 国	上海理工大学	平成23年 1月12日
韓 国	順天大学校	平成24年 2月21日
中 国	清華大学深圳大学院	平成25年 5月15日
中 国	西南交通大学	平成25年 11月 5日
中 国	蘭州大学	平成29年 3月17日
タ イ	カセサート大学	令和元年 5月22日
モンゴル	モンゴル科学技術大学エルデネット校	令和 5年 4月 3日

部局間協定

部局名	国・地域名	大学・学部等名	協定・覚書の締結・更新日
システム科学技術学部	イ ン ド	ビヤニ大学	平成24年 9月13日
	中 国	山東建築大学	令和 2年 3月10日
生物資源科学部	カ ナ ダ	ゲルフ大学 生物科学部	平成25年 3月 1日
	台 湾	国立中山大学 理学部	令和 5年12月20日
木材高度加工研究所	韓 国	ソウル大学校農業生命科学大学	平成26年10月 1日



データベース 在籍者数

学部在籍者の状況

令和6年4月1日現在

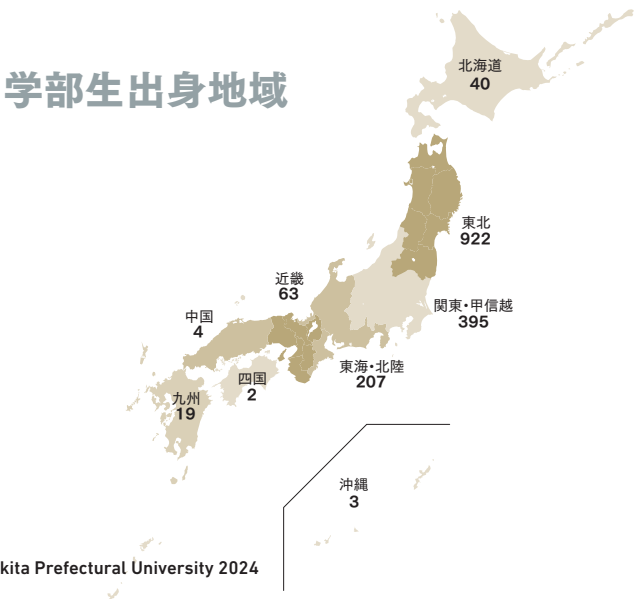
学部・学科名	定 員 (入学定員)		1年			2年			3年			4年			合計		
			計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
システム科学技術学部	960	(240)	252	219	33	274	236	38	243	211	32	238	197	41	1007	863	144
機械工学科	240	(60)	67	62	5	73	69	4	67	64	3	54	52	2	261	247	14
知能メカトロニクス学科	240	(60)	64	58	6	64	62	2	57	54	3	63	55	8	248	229	19
情報工学科	160	(40)	40	35	5	44	40	4	44	39	5	38	32	6	166	146	20
機械知能システム学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	1	-
建築環境システム学科	160	(40)	39	27	12	48	27	21	38	27	11	37	24	13	162	105	57
経営システム工学科	160	(40)	42	37	5	45	38	7	37	27	10	45	33	12	169	135	34
生物資源科学部	600	(150)	173	92	81	178	107	71	160	78	82	137	71	66	648	348	300
応用生物科学科	160	(40)	44	18	26	46	21	25	44	17	27	35	17	18	169	73	96
生物生産科学科	160	(40)	50	23	27	46	30	16	40	17	23	35	17	18	171	87	84
生物環境科学科	120	(30)	35	22	13	36	23	13	33	20	13	28	14	14	132	79	53
アグリビジネス学科	160	(40)	44	29	15	50	33	17	43	24	19	39	23	16	176	109	67
合計	1,560	(390)	425	311	114	452	343	109	403	289	114	375	268	107	1655	1211	444

大学院在籍者の状況

研究科名		定員	1年	2年	合計
システム科学技術研究科			58	66	124
博士課程 前期 総合システム工学専攻	機械工学コース	-	16	20	36
	知能メカトロニクスコース	-	11	17	28
	情報工学コース	-	13	10	23
	建築学コース	-	7	6	13
	経営システム工学コース	-	3	7	10
博士課程 前期 共同サステナブル工学専攻	エレクトロモビリティコース	-	3	1	4
	社会環境システムコース	-	5	5	10
生物資源科学研究科		56	29	24	53
博士課程 前期	生物資源科学専攻	56	29	24	53

研究科名		定員	1年	2年	3年	合計
システム科学技術研究科		24	0	2	9	11
博士課程 後期	総合システム科学専攻	24	0	2	9	11
生物資源科学研究科		15	4	2	5	11
博士課程 後期	生物資源科学専攻	15	4	2	5	11

学部生出身地域



データベース 進路・進学状況

学部進路状況

令和6年4月1日現在

学部・学科名	卒業学生数			就職内定者			就職内定率
	231	進学希望者	就職希望者	159	県内就職	県外就職	
システム科学技術学部		61	159		35	124	100%
機械工学科	56	19	34	34	4	30	100.0%
知能メカトロニクス学科	54	18	33	33	5	28	100.0%
情報工学科	40	13	22	22	9	13	100.0%
建築環境システム学科	42	7	35	35	6	29	100.0%
経営システム工学科	39	4	35	35	11	24	100.0%
生物資源科学部	160	進学希望者	就職希望者	120	県内就職	県外就職	99.2%
		37	121		40	80	
応用生物科学科	45	9	34	34	6	28	100.0%
生物生産科学科	43	13	30	30	11	19	100.0%
生物環境学科	30	10	20	20	9	11	100.0%
アグリビジネス学科	42	5	37	36	14	22	97.3%
合計	391	98	280	279	75	204	99.6%

大学院進路状況

研究科名(博士前期課程)	修了学生数			就職内定者			就職内定率
	68	進学希望者	就職希望者	67	県内就職	県外就職	
システム科学技術研究科		0	67		12	55	100%
生物資源科学研究科	29	進学希望者	就職希望者	25	県内就職	県外就職	100%
		3	25		5	20	
合計	97	3	92	92	17	75	100%

主な就職先企業等

学 部 システム科学技術学部

〈**県内就職**〉秋田エプソン(株)、(株)秋田銀行、(株)秋田新電元、SCSKニアシオアシステムズ(株)、(株)NTT東日本-東北、(株)サンコーホーム、(株)シビル設計、TDK(株)、リコーITソリューションズ(株)、リコージャパン(株) 〈**県外就職**〉アイシン・ソフトウェア(株)、(株)アイビーシー岩手放送、(株)一条工務店、NECネットエスアイ(株)、(株)ジェイテクト、(株)JVCケンウッド、(株)七十七銀行、高砂熱学工業(株)、東北電力(株)、(株)トヨタシステムズ、日本航空(株)、東日本旅客鉄道(株)、ミサワホーム(株)、三菱電機(株)、ミネベアミツミ(株) 〈**公務員**〉秋田県庁、岩手県庁、東京都庁、由利本荘市役所、野々市市役所、国土交通省気象庁、防衛省陸上自衛隊、新潟県教員

生物資源科学部

〈**県内就職**〉(株)秋田銀行、秋田酒類製造(株)、秋田なまはげ農業協同組合、イオン東北(株)、iKEYAKUホールディングス(株)、刈穂酒造(株)、(株)自然科学調査事務所、(株)北都銀行、(株)ヤマダフーズ、(株)UMNファーマ 〈**県外就職**〉(株)阿部蒲鉾店、伊藤ハム米久ブランド(株)、イノチオホールディングス(株)、カネコ種苗(株)、(株)江東微生物研究所、敷島製パン(株)、(一財)静岡県生活科学検査センター、全国農業協同組合連合会、日新製菓(株)、日本食研ホールディングス(株)、はごろもフーズ(株)、北興化学工業(株)、明星食品(株)、山崎製パン(株)、(株)ユニバース 〈**公務員**〉秋田県庁、北海道庁、青森県庁、山形県庁、栃木県庁、新潟県庁、富山県庁、静岡県庁、徳島県庁、能代市役所、十和田市役所、農林水産省東北農政局、群馬県教員

大学院 システム科学技術研究科

〈**県内就職**〉(株)秋田銀行、(株)NS・コンピュータサービス、TDK(株)、(株)ブロードバンドセキュリティ、ミネベアミツミ(株) 〈**県外就職**〉伊藤忠テクノソリューションズ(株)、(株)熊谷組、スズキ(株)、(株)SUBARU、住友重機械工業(株)、大成建設(株)、TOPPAN(株)、日東紡績(株)、(株)富士通ゼネラル、三菱電機(株)、(独)水資源機構、横浜ゴム(株) 〈**公務員**〉国土交通省東京航空局

生物資源科学研究科

〈**県内就職**〉佐藤食品(株)、(株)むつみワールド、(株)ヤマダフーズ 〈**県外就職**〉栄研化学(株)、菊正宗酒造(株)、(株)新日本科学、大建工業(株)、大東カカオ(株)、(株)なとり、日本全業工業(株)、森永製菓(株)、(株)雪国まいたけ 〈**公務員**〉秋田県庁、茨城県庁、国土交通省関東地方整備局、千葉県・千葉市公立学校教員

主な進学先大学院

秋田県立大学大学院、北海道大学大学院、帯広畜産大学大学院、東北大学大学院、秋田大学大学院、群馬大学大学院、東京工業大学大学院、千葉大学大学院、新潟大学大学院、山梨大学大学院、信州大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学

データベース 研究紹介

本学には、工学系のシステム科学技術学部、バイオ・農学系の生物資源科学部、農工融合の研究を行っているアグリノベーション教育研究センター、木材に特化した研究を行っている木材高度加工研究所、教養系として総合科学教育研究センターがあり、それぞれが特色ある研究を行っています。

所属	学科名	研究グループ名	研究課題名
システム科学技術学部	機械工学科	応用材料力学	新規複合材料の創製と性能評価・検査技術の開発
		先端材料	先端材料の創製とその機能・特性の評価と最適化
		熱流体	熱流体科学を基礎とした環境、エネルギー、安全に関する基礎研究とその産業応用研究
		電磁場ダイナミクス	電磁場を用いた機械システム・流体システムのダイナミクスに関する研究
		応用機械設計	放電やプラズマ・レーザーを利用する環境低負荷技術、地球環境に適合したエネルギー利用とバイオ燃料の熱特性、機械的微粉碎によるバイオマス利用、及びそれら機械的構造物の動的設計に関する研究
		先端加工	精密加工製作技術の開発
	ニクス学科	ロボティクス	先端計測・ロボットシステムに関する研究
		創造機械工学	未踏領域に向けたシステム創造および人工知能の応用・社会実装に関する研究
		電気電子応用システム	電気電子システム工学に関する応用研究
		先進物性デバイス	光・電子デバイス、電子材料・半導体集積回路に関する研究
	情報工学科	情報システム	情報システムのシステムデザインならびに要素技術に関する研究
		知能システム	数理・AI・機械学習・シミュレーション等の技術を駆使して人間を知的に支援する知能システムに関する研究と、農業・情報教育等への応用
		メディア情報処理	メディア情報処理技術に関する研究と、臨場感の高い3D音場の收音、伝送、再生や、交通安全、画像情報解析等の人間支援情報システムへの応用
	建築環境システム学科	建築構造学	建築物の構造的安全性と耐震性に関する研究
		建築材料学	循環型社会に向けた建築材料の開発及びその活用と高耐久化技術に関する研究
		環境計画学	健康・快適性と省CO2性能に配慮した建築環境計画に関する総合的研究
		都市・建築計画学	都市・建築空間の計画と設計に関する研究
	経営システム工学科	経営企画	事業構想とその実施のための経営管理手法の体系化とイノベータ教育を通じた地域活性化への適用
		先端ビジネスマネジメント	農業・医療の発展に資するデータ収集・活用技術の研究
		計画数理	経営システム工学における数理的手法の理論と応用に関する研究
		経営データ分析	データ分析のための数理最適化に基づく基盤技術に関する研究
		社会環境シミュレーション	人工知能(AI)とデータサイエンス(DS)を社会に役立てるサイバーフィジカルシステム(CPS)の実現および地域経済のための問題解決手法の確立と応用
		環境マネジメント	環境問題解決のための方法論の確立と地域の環境システムに関する研究
生物資源科学部	応用生物科学科	微生物機能	微生物機能の解明とその応用に関する研究
		動物機能	動物細胞の分子細胞生物学的な研究に基づく機能の解明とその応用
		植物機能	植物関連物質の探索や機能解明または利用に関する研究
		食品醸造	食品および酒類の高品質化に関する研究
	生物生産科学科	植物生産基礎	持続可能な植物資源生産技術の基礎理論並びに応用に関する研究
		植物遺伝・育種	植物機能を制御する分子機構の解明と植物育種技術の開発
		植物生理	植物における炭水化物を中心とした代謝機構の解明と植物資源の利用技術の開発
		分子シグナル制御	生物(植物や昆虫など)の生態(分化や生存戦略など)に関与する分子シグナルの生命科学研究
		植物資源創成システム	植物資源創成システムの研究
	生物環境科学科	陸域生物圏	陸域生物圏における環境の多様性と持続的な管理手法に関する研究
		環境管理修復	質的に悪化した土壌・水環境の修復と適正管理技術、並びに資源循環技術の開発に関する研究
		地域計画	地域の資源と環境の評価に基づく地域計画の理論と実践方策に関する研究
		基礎生命科学	リボタンパクの測定方法の開発
	ネス学科	アグリテクノロジー	秋田県の地域性を活かした作物、園芸および畜産の技術開発
		ルーラルエンジニアリング	ほ場から流域スケールを見据えた農業生産基盤の管理・保全技術の創出
		アグリビジネスマネジメント	構造転換期における農業・農村の持続的発展条件の解明と次世代型アグリビジネスの展開方向
AIC	フィールド農学	大規模省力的・高収益な農業生産システムの実証研究	
木高研	木質科学	森林資源を活用した持続的な資源循環型社会の形成	
総合センター	人間科学	現代社会における人間理解－人間科学的アプローチ－	
	英語	理系の公立大学における実践的英語教育推進のための基礎研究および実践研究	

データベース 決算／外部資金

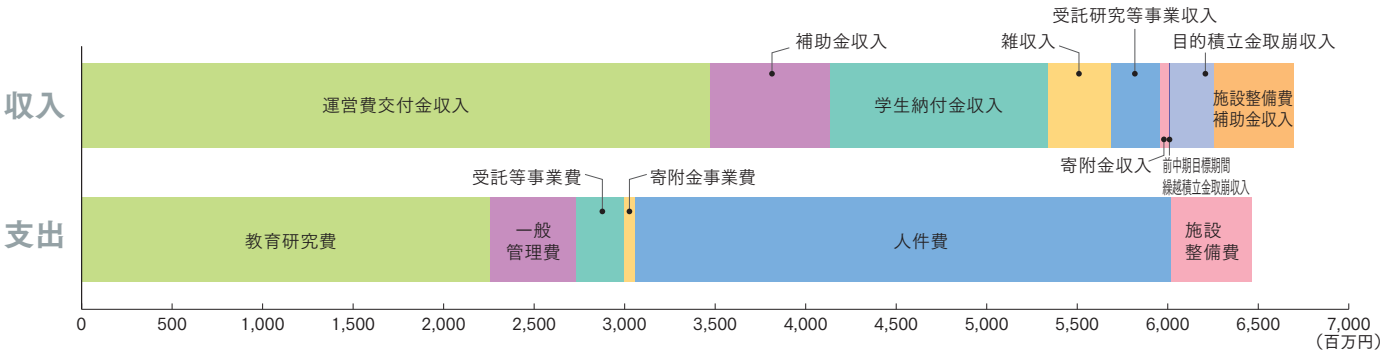
決算報告

令和4年度(単位:百万円)

収 入	
運営費交付金収入	3,472
補助金収入	658
学生納付金収入	1,209
雑収入	343
受託研究等事業収入	272
寄附金収入	52
前中期目標期間繰越積立金取崩収入	6
目的積立金取崩収入	238
施設整備費補助金収入	447
合計	6,699

支 出	
教育研究費	2,253
一般管理費	479
受託等事業費	264
寄附金事業費	57
人件費	2,963
施設整備費	447
合計	6,465

収入－支出	233
-------	-----

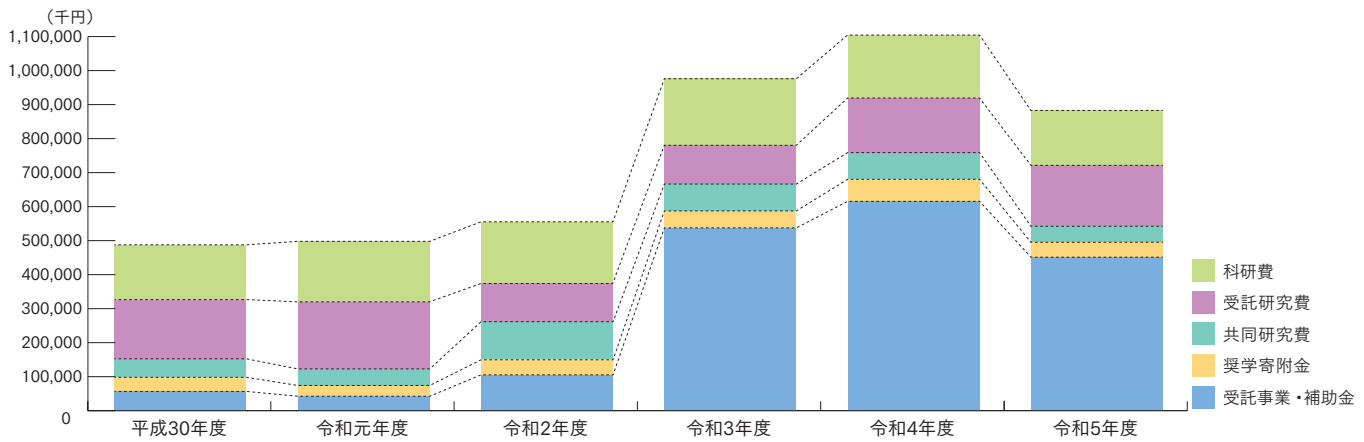


外部資金の受入状況

平成30年度～令和5年度(単位:千円)

	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度	
	数	金額	数	金額	数	金額	数	金額	数	金額	数	金額
科研費	96	161,344	94	177,716	101	180,599	98	194,715	91	184,265	95	160,433
受託研究費	62	175,264	60	197,733	41	113,398	47	114,288	60	161,130	62	179,322
共同研究費	100	53,467	112	48,624	121	111,138	117	80,738	126	78,418	122	47,927
奨学寄附金	48	40,939	43	31,857	50	44,347	50	48,671	47	63,735	42	43,176
受託事業・補助金	86	56,631	76	41,673	70	105,632	66	537,253	81	616,417	80	451,591
小計	392	487,645	385	497,603	383	555,114	378	975,665	405	1,103,965	401	882,449

※科学研究費補助金・助成金:研究分担者分は除いた件数及び金額



データベース 特許シーズ

特許・シーズ集（公開特許）

令和6年5月1日現在

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
発明届等届件数	12	11	12	25	16	22	14
特許等出願件数	15	16	16	25	16	18	11

特許番号	特許名
特許第4792587号	低カリウムホウレンソウおよびその栽培方法
特許第4861481号	麹菌、及びそれを用いた清酒の醸造方法
特許第5010344号	鋳鋼片の表層処理装置及び鋳鋼片の表層処理方法
特許第5300993号	低カリウム野菜を栽培するための水耕栽培用肥料及びその肥料を用いた低カリウム野菜の水耕栽培方法
特許第5724131号	吟醸香を産生する新規ビール酵母及び該酵母を使用したビール製造方法
特許第5745754号	クレードル式傘歯車創成装置を用いて傘歯車を製造する方法
特許第5807896号	有機酸組成の優れた自然変異株清酒酵母分離法
特許第5837734号	植物への重金属吸収促進剤および土壌の浄化方法
特許第5919034号	皮革類の除菌方法
特許第6299006号	切削物、木質材料の製造方法及び木質ボードの製造方法
特許第6299007号	木質ボード及びその製造方法並びにマット状物
特許第6422188号	水耕栽培方法、葉菜類の製造方法、培養液、及び培養液製造方法。
特許第6482071号	木質ボード及びその製造方法
特許第6487304号	水耕栽培方法、葉菜類の製造方法、培養液、及び培養液製造方法。
特許第6504634号	木質ボード
特許第6504635号	木質ボード及びその製造方法並びにマット状物
特許第6516711号	コンクリート製人工礁
特許第6548059号	Fe基合金組成物、軟磁性材料、磁性部材、電気・電子関連部品および機器
特許第6592819号	木質ボード及びその製造方法
特許第6595347号	音響材料及び楽器
特許第6673705号	哺乳動物の胚処理方法及び胚製造方法
特許第6795765号	細胞膜穿孔用容器およびこれを用いた細胞膜穿孔方法
特許第6824519号	ダイズ黒根腐病防除剤、ダイズ黒根腐病を抑制する微生物資材、及びダイズ黒根腐病防除方法
特許第6874956号	セシウム吸収を制御する遺伝子およびセシウム低吸収性植物
特許第6878751号	土壌伝染性病害軽減材
特許第6905239号	CLT同士を接続可能としたCLT
特許第6944686号	生分解性複合材料とその製造方法
特許第6964308号	微生物産生マンガン酸化物の製造方法、重金属吸着方法、重金属吸着剤
特許第6966734号	圧延加工による導電性高分子複合材料の製造方法およびその成形方法
特許第6987179号	動物忌避用杭
特許第7120557号	U9－1iクラスター検出用プライマー、ならびに、当該プライマーを利用した検出方法、定量方法、および、マンガン酸化細菌の核酸抽出方法
特許第7232546号	音響信号符号化方法、音響信号複合化方法、プログラム、符号化装置、及び音響システム
特許第7239136号	難消化性澱粉高含有イネ変異体、米粉製造方法、難消化性澱粉製造方法、米ゲル製造方法、食品製造方法、及び難消化性澱粉高含有イネ変異体の作出方法
特許第7241404号	薄板木材樹脂接合体
特許第7395185号	回転電機
特許第7401908号	制振装置
特許第7411186号	伸縮増値
特許第7421212号	大気環境測定方法
特許第7475676号	回転電機
602017012100.2	ACOUSTIC MATERIAL AND MUSICAL INSTRUMENT
US10195828B2	ACOUSTIC MATERIAL AND MUSICAL INSTRUMENT
ZL201710013998.2	音響材料及び楽器
KR.102231316.B1	Fe基合金組成物、軟磁性材料、磁性部材、電気・電子関連部品および機器
US10950374B2	Fe基合金組成物、軟磁性材料、磁性部材、電気・電子関連部品および機器
ZL 201780007609.3	Fe基合金組成物、軟磁性材料、磁性部材、電気・電子関連部品および機器
IDP74395	Cut Article, Method for Manufacturing Wooden Material, and Method for Manufacturing Wooden Board
IDP74396	Cut Article, Method for Manufacturing Wooden Material, and Method for Manufacturing Wooden Board
IDP73758	Engineered Wood, Method for Manufacturing Same, and Mat-Shaped Material
IDP73759	Engineered Wood, Method for Manufacturing Same, and Mat-Shaped Material

特許公開番号	発明の名称
特開2021-186887	伸縮装置
特開2022-049004	木材処理方法、木材処理剤、及び木材加工品
特開2022-095152	光ファイバおよびASE光源
特開2022-164411	光ファイバーおよびファイバーセンサ
特開2022-167583	伸縮装置
特開2023-009415	新規なダイズ根粒菌
特開2023-029307	積層体の製造方法
特開2023-039157	遺伝子組み換え細胞製造方法、培養方法、遺伝子組み換え細胞、発現ベクター製造方法、及び発現ベクター
特開2023-041152	ダイズ土壌伝染性病害軽減材

特許公開番号	発明の名称
特開2023-064454	カーボンナノチューブ複合樹脂薄膜およびその製造方法
特開2023-087755	卵巣刺激器具及び卵巣刺激方法
特開2023-117011	光ファイバーおよび光ファイバーの製造方法
特開2023-124571	Fe基ナノ結晶軟磁性合金磁心
特開2023-164284	音声生成装置、音声再生装置、音声生成方法、及び音声信号処理プログラム
特開2023-170209	木材積層体およびその製造方法
特開2023-180085	接合構造
特開2023-183859	木部材の補修・補強剤及び補修・補強方法
特開2024-035278	鉄欠乏耐性付与ポブラ、鉄欠乏耐性付与ポブラの作出方法、及び鉄欠乏耐性付与ポブラの栽培方法

キャンパス概要



本荘キャンパス

●共通施設棟
◎講義室◎CALL教室◎コンピュータ実習室◎図書館 等

●メディア交流棟
◎ラーニング・commons◎カフェテリア◎売店 等

●学部棟Ⅰ ●学部棟Ⅱ
●特別実験棟 ●創造工房棟
●体育施設棟 ●大学院棟
●バイオマス実験棟
●敷地面積20.5ha
●施設延床面積49,343㎡
（内大学院7,220㎡）



秋田キャンパス

●共通施設棟
◎講義室◎コンピュータ実習室◎CALL教室◎カフェテリア・売店 等

●管理棟 ●地域連携・研究推進センター棟
●図書・メディア・講堂施設棟 ●学部棟Ⅰ
●学部棟Ⅱ ●学部棟Ⅲ ●特別実験棟
●体育施設棟 ●課外活動施設棟
●実験園場 ●大学院棟 ●植物工場
●危険物保管庫 ●バイオテクノロジーセンター
●敷地面積40.9ha
●施設延床面積37,831㎡（内大学院4,494㎡）



大潟キャンパス

●管理棟 ●講義棟 ●実験棟
●研究棟 ●プロジェクト実験棟
●図書室 ●体育館
●アグリノベーション教育研究センター

◎ハイク・ガラス温室◎畜舎
◎大型農業機械管理庫 等

●学生寮(清新寮) ●厚生会館
●敷地面積207.3ha
●施設延床面積30,204㎡



能代キャンパス

●本館
◎図書室◎研修室◎研究棟
◎研究員室◎ラウンジ◎分析室
◎電顕室◎恒温恒湿室

●北試験棟
◎北計測室◎実験室

●南試験棟
◎南計測室◎実験室

●耐火試験棟
●敷地面積6.4ha
●施設延床面積8,725㎡

